【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成16年11月25日(2004.11.25)

【公表番号】特表2000-504776(P2000-504776A)
【公表日】平成12年4月18日(2000.4.18)
【出願番号】特願平9-529785
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０８Ｆ　 4/64
　Ｃ０８Ｆ　10/00
　Ｃ０８Ｊ　 5/00
【ＦＩ】
　Ｃ０８Ｆ　 4/64
　Ｃ０８Ｆ　10/00
　Ｃ０８Ｊ　 5/00　　ＣＥＳ

【手続補正書】
【提出日】平成16年3月5日(2004.3.5)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成１６年　３月　５日

特許庁長官　殿

１．事件の表示

適

特願平０９－５２９７８５号

２．補正をする者

名称　ビーエーエスエフ　アクチェンゲゼルシャフト

３．代理人

住所　東京都中央区京橋２丁目８番１８号　昭和ビル９階

氏名　~~(100３５)~~ A035 弁理士　江藤　聡明

４．補正により増加する請求項の数　０

５．補正対象書類名

特許請求の範囲

６．補正対象項目名

特許請求の範囲

７．補正の内容

別紙の通り

特許庁 16.3.8 出願支援課 猫塚

方式審査 佐藤

【特許請求の範囲】

１．（Ａ）無機担体と、以下の一般式Ｉ

$$M^1(R^1)_r(R^2)_s(R^3)_t(R^4)_u \qquad I$$

で表わされ、かつ式中の

M^1がアルカリ金属、アルカリ土類金属または周期表のＩＩＩまたはＩＶ主族金属、

R^1が水素、C_1－C_{10}アルキル、C_6－C_{15}アリール、アルキル基中に１から１０個、アリール基中に６から２０個の炭素原子を有するアルキルアリールまたはアリールアルキル、

R^2からR^4が、それぞれ水素、ハロゲン、C_1－C_{10}アルキル、C_6－C_{15}アリール、アルキル基中に１から１０個、アリール基中に６から２０個の炭素原子をそれぞれ有するアルキルアリール、アリールアルキル、アルコキシまたはジアルキルアミノ、

ｒが１から４の整数、

ｓ、ｔおよびｕが０から３の整数を意味するが、ｒ＋ｓ＋ｔ＋ｕの合計がM^1の原子価に対応する金属化合物との反応、

および過剰な式Ｉの金属化合物の除去、

（Ｂ）上記反応（Ａ）により得られる化合物と、金属ジハロゲン化物の形態におけるメタロセン錯体および<u>および強、中性ルイス酸、ルイス酸カチオンを有するイオン結合化合物およびカチオンとしてブレンステッド酸を有するイオン結合化合物の中から選ばれる</u>メタロセニウムイオン形成化合物との反応、および

との反応、および

（Ｃ）これに次いで、以下の一般式ＩＩ

$$M^2(R^5)_o(R^6)_p(R^7)_q \qquad II$$

で表わされ、

かつ式中の M^2がアルカリ金属、アルカリ土類金属または周期表のＩＩＩ主族金属、

R^5が水素、C_1－C_{10}アルキル、C_6－C_{15}アリール、アルキル基中に１から１０個、アリール基中に６から２０個の炭素原子を有するアルキルアリールまたはア

リールアルキル、

R^6、R^7がそれぞれ水素、ハロゲン、C_1－C_{10}アルキル、C_6－C_{15}アリール、アルキル基中に１から１０個、アリール基中に６から２０個の炭素原子をそれぞれ有するアルキルアリール、アリールアルキル、アルコキシ、

ｏが１から３の整数、

ｐ、ｑがそれぞれ０から２の整数を意味するが、ｏ＋ｐ＋ｑの合計がM^2の原子価に対応する場合の金属化合物との反応により得られることを特徴とする、担持触媒組成物の存在下に、懸濁重合によりアルケン重合体を製造することを特徴とする方法。

２．工程（Ａ）において得られた材料を単離し、乾燥することを特徴とする、請求項１の方法。

３．式Ｉ中のM^1がアルミニウム、R^1からR^3がそれぞれC_1－C_{10}アルキル、ｕが零を意味することを特徴とする、請求項１または２の方法。

４．工程Ａ）を、０から８０℃の温度にて０．１から４８時間の反応時間で行うことを特徴とする、請求項１から３のいずれかの方法。

５．式ＩＩ中のR^5からR^7が、それぞれC_1－C_{10}アルキルを意味することを特徴とする、請求項１から４のいずれかの方法。

６．触媒組成物の固体成分と式IIの金属化合物との反応を、重合反応器にて行うことを特徴とする、請求項１から５のいずれかの方法。

７．アルケンの重合体が、エチレンまたはプロピレンの単独重合体または共重合体である、請求項１から６のいずれかの方法。